

標準拡大教科書と協議会

代表世話人 土屋 宏

標準拡大教科書が本格的に発行される事により、ボランティアとして製作する拡大教科書は極端に減少している状況となっております。全ての教科書について拡大教科書が発行される事は弱視の児童生徒にとつては大変良いことであり、私たちも望んでいたことでもあります。この結果、学校の学習環境が改善され、一人一人が望むような学習が叶うようになる事を念願するものです。

一方で、私たちのボランティア活動は、これまでとは異なつた方向に進むことが求められます。「欲しい拡大教科書が手に入らないことへの対応から、希望する内容の拡大教科書」、「見え方に適合した拡大教科書」への対応へと転換が必要となります。ボランティアが目指していた「一人一人の状況に適合した拡大教科書の提供」と言う本来の活動に立ち返ることになります。

最近、「拡大教科書の製作依頼がないので活動を続けるべきか」と迷っているとの声をお聞きます。

私たちの活動は「拡大写本」からスタートしていると思いません。拡大教科書は拡大写本の一部です。拡大教科書の作業が無くなつたから活動が終わつた事にはならないと思います。弱視者は児童生徒に限つたことではありません。更に視覚異常のために読むことに不便を感じている方は沢山いらっしゃいます。皆様の活動が拡大教科書の作業が無ければ終了となるのでは無く、その他の作業をしながら継続をすべきだと思います。もし、何年か先に近隣の児童生徒から拡大教科書を製作して欲しいとの要望があつたらどうなりますか。本来、ボランティア活動とはそう言つたものだらうと思ひます。拡大教科書製作活動を地域活動に結びつけるポイントはここにもあると思ひます。

全国拡大教材製作協議会の設立について検討していた当時を振り返りますと、この協議会は「拡大写本」の全国協議会を目指しておりました。全ての書籍を自由に拡大写本に出来ることを目指しておりました。そのためには、著作権法が大きなネックとなつておりました。著作権法の改正無くしては実現しない目標でした。そのためには何年も続く活動が必要とします。しかし、拡大教科書は何年も待つことの出来ない眼前の問題でした。その結果、教科書に限定すれば課題の範囲が限定的であり、目的の実現が早められると決断をしました。その結果として現在の全国拡大教材製作協議会が設立されることになりました。拡大教科書と拡大写本とは一体のものであつて、私たち協議会の活動も拡大写本の見地に立つて考え、みるべきとも思つておられます。

HPについて、今回のリニューアルとこれから

世話人 佐藤 邦隆

拡大協のホームページをリニューアルしてから、早いものでもう3ヶ月が経ちました。ご覧頂いた感想はいかがでしようか。

今回のリニューアルでは、標準規格の拡大教科書が教科書出版社からの出版という、提供に関わる周囲環境が新しくなつてきています。その変化を踏まえた情報の更新を致しました。また、23年度から全面改訂となつた小学校教科書の最初の作製年度となる今年度の作製実績も会員各位から提出いただいた情報をまとめて掲載することが出来ました。10月末現在で315教科書の拡大版について掲載してあります。

また、会員のページでは、最近の過去5年分の協議会の

活動報告と今年度の活動計画を掲載して協議会を通じた会員間の緊密性の向上を目指しました。会員名簿では65グループの会員の最新情報の更新をするともに自らホームページ持っている会員グループへはハイパーリンクも付加しました。

リニューアルの作業過程でみなさまにご協力いただいたアンケートの情報も掲載して会員の意見や要望など相互の関心事項の交換に資するように努めました。

入会登録や各種申請に必要な様式用の紙がダウンロードできるようにしました。またネットでの届け出も併せて受け付けるようになりました。

更に今回のリニューアルでは関連先リンクも充実するように努め、役立つ情報を掲載したつもりです。ようやく関心を高めてくれた政府機関や自治体がHPを使って拡大教材の提供等に関する情報を掲載して便宜を提供しています。研究機関や大学などの弱視児教育への研究成果なども出来るだけ関連付けを行い皆さんへのお役立ちに努めました。ボランティアを支援して下さる企業についてもリンクさせて頂きました。

会員の中にも高度な内容(コンテンツ)を持つHPを運営するグループが居られ、有効な情報を提供してくれます。これらリンクによっても皆様にお役に立てることを祈ります。

一般図書の教材の読解に困難を感じ拡大写本の必要性に遭遇したことで何とかして知識を得ようと試みる方や拡大教材の存在をうすうす知っているものいざ現実に利用するために詳細を知りたい方が一方に居られます。他方に優しさと叡智と熱意に溢れるボランティアの方が全国各地にいて日夜その提供に努めています。この両方の橋渡しがとても重要ですが、なかなか充分ではないのが現実でしょう。

この橋渡しを、ネットという現代のすばらしい道具を用いて、

よどみなく果たすことがこのHPの目指すところかと思えます。

これからのコンテンツとして、会報の1号からのアーカイブを掲載したいと考えています。リニューアルの作業の過程で会報を1号から通して拾い読みしてみましたところ、会員の皆さんが長年に亘り果たしてこられた貢献がよく見て取ることが出来ます。拡大教材を作製し提供に努めてこられた全国のボランティアの方々の努力の足跡を残す充実した歴史でもあると感じました。これをHPに載せることは必ずやお役に立つのではないかと思えます。

会報1号は1990年3月に発行されています。初代の代表世話人であられた難波順子様が寄稿されています。その中から一部を抜粋します。「・皆様の忌憚のないご意見ご感想を吸い上げる場となり、全国津々浦々から湧き出す優しさと英知がシャトルのように行き交い一つの輪となるように、そして前進するための力となり、拠り所となることを願ってやみません。」

会員相互の交流については、やっと緒についたところではないでしょうか。それぞれが長年に亘って培ってこられた作製に関する高度な技術やノウハウなどを会員間で交流が出来るようになるればどんなにか有効でしょうか。そうした項目を充実して参りたいと思つています。皆さんからの活発なご意見や希望などをお願ひします。

HPリニューアルの体制では、一部会員の有識者のご指導も仰ぎつつ、世話人会が知恵を出し合つてなんとかリニューアルを果たしました。ページのビルドアップでは私の友人であり、専門家である土居昭昌氏の力に依存しました。彼には、全くのボランティアで全面的にご協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

(4ページに続く)

平成24年度拡大教材製作協議会総会・拡大写本のつどいのお知らせ

『拡大写本のつどい』神奈川大会実行委員会

平成24年度の開催にあたり、協議会主催、神奈川県拡大写本連絡協議会共催で神奈川大会として実施します。

すでに世話人会の承認をいただき、本年7月神奈川県拡大写本連絡協議会内に『拡大写本のつどい』神奈川大会実行委員会を組織し、開催準備を始めました。日時・会場等決定事項をお知らせします。

開催日時 平成24年5月20日(日) 午前10時～午後3時30分
会場 かながわ県民センター(JR横浜駅西口徒歩約5分)
住所 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
テーマ “原点にもどる”

～作れていますか? 利用者がのぞむ拡大教科書を～

平成16年度以降製作に追われてきましたが、標準拡大教科書が出揃い、ボランティアの製作する量が減りました。

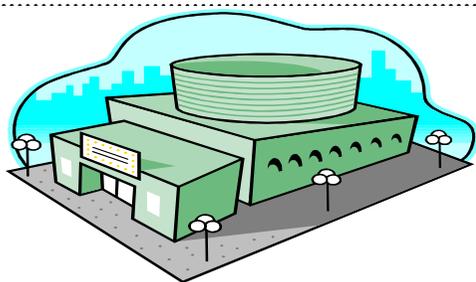
これからの活動の在り方を考えるために全国のボランティアがつどい、さまざまな問題を話し合ひましょう。

今大会は、総会と『拡大写本のつどい』(午前の部)を並行して行います。
『午前の部』はワークショップ形式とし、体験ブースを計画中です。
『午後の部』は参加者全員を小グループに分け話し合う場にします。

『拡大写本つどい』の内容は引き続き検討してまいりますので、会員の皆様からのご意見・ご要望・ご提案をお待ちしております。

宛先 〒241-8585
神奈川県横浜市旭区二俣川1-80-2 神奈川県ライトセンター内
神奈川県拡大写本連絡協議会『拡大写本のつどい』
神奈川大会実行委員会まで

FAX 045-364-0027



これらからのHPを世話人会で全て運営できるようにまだまだ充実してゆく必要があります。HPのコンテンツの更新などはインターネットを通じて、身体の移動は無しで、協力体制が作れますので、全国の会員の中から技術をお持ちの方のご協力を是非お願いします。

難波様の会報1号での願いが、このツールを皆さんが駆使することで、HPにおいて今までより更に高いところまで達成されるようにしてゆきたいと思います。

神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団拡大写本本部会訪問記

千葉県拡大写本連絡会

浦安拡大写本グループ「ルーパー」 津布久 順子

9月13日、千葉県拡大写本連絡会では初めて千葉県を飛び出し神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団拡大写本本部会を訪問、活動を見学させていただきました。午前中は作業の様子を午後は活動場所の神奈川県ライトセンターを案内していただきました。在籍約90人のボランティア数にまず驚きました。教科書は手書きが中心で比較的ポイント数の大きなものを細かく分担され、和気あいあいとした雰囲気の中で製作される一方、校正は静かな別室にて厳しく取り組まれており感心致しました。

また神奈川県視覚援助の所属されている神奈川県拡大写本連絡協議会では長年、神奈川県内でのボランティアグループの育成に取り組まれてきました。環境も充実、ソフト・ハード両面整い活動されており参考にさせていただけることがたくさんありました。あつという間に時間は過ぎました。より良い拡大教科書を・と製作に取り組み気持ちほどのグループも皆同じと思いいながら帰路に就きました。

神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団拡大写本本部会のみなさま、あたたかく迎えていただきありがとうございました。
来年、神奈川県で開かれる「拡大写本のつどい」でまたお会いできることを楽しみにしております。

入門講座雑誌

下丸子図書館拡大写本研究会

鈴木 美知子

私達の会では、平成15年より新入会員募集のための講習会を大田区立東調布第三小学校・区立下丸子図書館の協力を得て毎年秋に開催しています。募集案内は、大田区立図書館17館へポスターとちらし。大田区報・社会教育情報誌・社会福祉協議会のボランティア情報誌・新聞の地域かわら版等へ掲載していますが、発信力としては、ボランティア熱の高まっている世情を反映してか社会福祉協議会主催のボランティア入門講座での会の紹介を聞いての応募が多数を占め、参加者のほとんどの方が、拡大教科書の存在そのものを知らず、まして完成まで手作り仕上げていることへの驚きが第一声です。

講座の内容は、弱視者についての基礎知識・眼鏡を使つての弱視体験・拡大教科書の基礎知識・教科書体及びゴシック体を書く・校正をする・配布した資料で小冊子を製本する。など全三回で盛り沢山の講義・実技をしています。毎回のアンケートでも回数数の多少・パソコンでの作業への質問(私達の会では手書きを主にしている)等々、次の開催への問題点は多々出てきます。

東調布第三小学校には弱視児童のための支援学級があり、講座の中で教室の見学と担当の先生からの説明を聞くことができることは、百聞は一見にしかずと大変好評です。

受講生の中から会に参加される方も増えてきましたが、今年から作る教科書が減りました。例会で話を聞くだけで、「何をしたらいいの?」ではモチベーションも下がりますので、入会後の指導といえますが繁忙期にどの程度無理がきくかをも含めてボランティアである以上強制はできませんが、研修をしながら拡大教科書作りへどのように組み込んでいけばよいか頭の痛いところですよ。

全国協議会に参加されている皆様の会では、新入会員への指導・研修はどのようにされておられるのでしょうか。平成24年度の「拡大写本のつどい」の折にでも各グループの開催されている養成講座の内容・活動中の会員の研修方法などお聞かせいただければ嬉しいなと思います。

二十三年度世話人会日程

11月30日(水)
1月25日(水)
3月28日(水)

・原則として隔月第4水曜日 午後一時半
(どなたでもお気軽にご参加下さい)

・場所 東京都障害者福祉会館

東京都港区芝 5・18・2

・交通 JR田町駅下車 徒歩3分

都営地下鉄三田線・浅草線

三田駅下車すぐ

現在のグループ数 65グループ

香芝拡大写本トシボの会(奈良県香芝市)

8月新規加入

アンケートのお願い

会報に同封しておりますが、「グループの現状と今後の活動」についてアンケートを実施することになりました。

今年7月に神奈川県拡大写本連絡協議会においてアンケートが実施されました。その事を受けて、全国拡大教材製作協議会として、全国の会員の皆さまの現状と今後の活動について生の声をお聞きして、これからの活動について考えていきたいと思っております。皆さまの素直なご意見をお寄せください。

ご協力よろしくお願ひいたします。

アンケートは神奈川県拡大写本連絡協議会様で集計していただけることになりました。必ず12月末までにお送りください。

【宛先】

〒241 8585

神奈川県横浜市旭区二俣川1 80 2

神奈川県ライトセンター内

神奈川県拡大写本連絡協議会事務局

Fax 045 364 0027

《編集後記》

今年度は小学校が、来年度は中学校の教科書が全面改定になります。皆さまのグループでも製作の準備が始まっている頃と思います。依頼者が減少しているとはいえ、ボランティアの作る教科書を心待ちしてくださる児童・生徒の方のために一日も早く教科書・デジタルデータが欲しいところです。

来年の「拡大写本のつどい」も神奈川県で準備が始まっています。神奈川の皆さまにはいろいろお世話になります。

日々の活動の中で、今私たちが抱えている問題や悩みを持ち寄り、解決の糸口を見いだす機会にいたしましょう。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきたいと思います。

(一)